

研究代表者 所属・職：経済学部・准教授

氏 名：吉田 直美

研究会名：日本福祉大学防災研究会

研究課題名：地域コミュニティの防災

研究会発足当初の背景

日本福祉大学防災研究会は、2010 年頃に、防災・避難という観点からの大学教育に取り組んでいた生江明（元日本福祉大学教員）、磯部作（元日本福祉大学教員）、大場和久（健康科学部）ら教員が中心となつての活動が発端となり、2011 年の東日本大震災を 1 つの契機に、地域における実証的な研究及び教育の必要性を感じて、吉田直美（経済学部）を入れて発足したものである。布土学区自主防災会との連携協力のもと、地区防災訓練への参加、地域の危険個所の点検、小学生による通学路点検と危険個所マップ作りの支援、防災研修会における防災ゲームの実施、講習会の実施、地区防災計画作成への支援等を行ってきた。

研究会の目的

南海トラフ地震が発生すれば、大学のキャンパスがある美浜町地域の家屋倒壊や津波による甚大な被害が予想されるため、その被害を最小限に抑えるために、地域住民の防災意識の向上と適切な避難準備・行動がとれるようにするための震災被害に対する地域防災計画に関わる住民への活動支援・研究を行うこと。特に 2018 年度は、布土学区住民自身による防災計画づくりの支援、いっとき避難場所への備蓄品整備の推進、避難ルート of 安全確保、災害弱者の避難方法の確立、障害者施設と地域の連携への支援に向けた取り組みをすることを目標として挙げた。

研究会の活動実績

①2018 年度は日本福祉大学防災研究会を 8 回開催（そのうち 4 回はスカイプ会議）した。

第 1 回 2018 年 5 月 1 日（スカイプ会議）

第 2 回 2018 年 7 月 6 日

第 3 回 2018 年 9 月 6 日

第 4 回 2018 年 10 月 11 日～12 日（研究会合宿）

第 5 回 2018 年 11 月 3 日

第 6 回 2019 年 1 月 9 日（スカイプ会議）

第 7 回 2019 年 1 月 25 日（スカイプ会議）

第 8 回 2019 年 2 月 16 日

第 9 回 2019 年 2 月 25 日

②美浜町布土学区自主防災会との打ち合わせ会

第 1 回 7 月 6 日 役員と今年度の活動方針の確認

第 2 回 9 月 5 日 合同役員会にて布土小学校防災訓練後の反省会

第 3 回 11 月 4 日 防災訓練後の反省会

第 4 回 2 月 17 日 防災研修会後の反省会

③4 月 29 日 社会福祉法人みはま福祉会主催のあぜーりあ祭に参加し、防災グッズの展示説明及び JINRIKI の体験コーナーを開設し、住民の防災意識の向上に努めた。

④視察及びヒアリング調査

2018 年 8 月 8 日 国分寺市防災安全課防災対策係及び高木町自主防災組織へのヒアリング調査

2019 年 2 月 25 日～27 日 西日本豪雨被災地（倉敷市真備町支所、総社市下原自主防災組織）視察及びヒアリング調査

⑤防災訓練・講演会・研修活動

2018 年 8 月 12 日 美浜町防災リーダー研修担当（大場）

2018 年 7 月 26 日、8 月 15 日 「上高田まちづくりの会」防災住民ワークショップ（生江）

2018 年 9 月 5 日 布土小学校防災訓練視察

2018 年 11 月 4 日 布土学区防災訓練（講演・

企画の一部担当)

2019年1月12日 南知多町「ことぶき大学」
での講演(大場)

2019年2月17日 布土学区自主防災に関する
講習会(講演・防災ゲーム・調査報告担当)

④社会福祉施設(セルプ・アゼーリア)開催のお祭り
りで防災グッズ展示及びJINRIKI実演会実施

防災グッズ(備蓄品・非常時持ち出し品)と災害
弱者の移動を支援する機器の操作方法の体験コー
ナーにより、地域住民への啓蒙活動を行った。

⑤視察及びヒアリング調査

- ・先進的な防災活動に取り組んでいる府中市及
び府中市高木町自主防災会の視察とヒアリング
- ・西日本豪雨被災地(岡山・広島)への視察調査

研究成果

①布土学区のdeno(講演、展示、防災ゲーム)活
動の積み重ねから、布土学区以外からの防災につ
いての講演依頼を受けるようになった(美浜町防
災リーダー研修、南知多町ことぶき大学の講演)

②防災研究会HPの作成

健康科学部の学生の協力をもとに、防災研究会
の活動及び防災・減災情報、また先進的な地域コ
ミュニティによる防災活動の実践についての発信
のツールとしてのHPを作成した。

http://bosai.sakura.ne.jp/bosai_kenkyu/

③磯部作:「予知され、防げたはずの西日本豪雨災
害:ダムの放流問題を中心に」人権21:調査と研
究(258),3-10,2019-02

今後の展望

2018年度は、大阪北部地震、台風直撃による暴
風雨及び西日本豪雨、北海道胆振東部地震等、大
きな自然災害に見舞われた年であった。地震、津
波、土砂崩れ等の自然災害の被害を最小限に止め

て「誰も死ななくて済む」ために、自主防災会、教
育機関、医療機関、行政などの地域社会を構成す
る住民主体が相互連携しあい、総合的な地域防災・
減災計画を作成し、かつリアリティに基づいて更
新していけるように地域住民の防災活動を支援し
ていく。また、災害弱者をはじめとする避難支援
の在り方と避難情報や支援情報の在り方、そして
住民の実際の避難行動に移せるための手法につい
て、今後は布土学区以外の地域に広げることも含
め、防災訓練活動、講習会、ネットでの発信等の支
援・調査・研究を積み重ね、確実な準備・避難行動
の実現に向けての活動を展開していくことを目指
す。